

4

プラトン

SUPPORT

1 アイデアへの憧れ

① プラトン …ソクラテスの弟子。古代ギリシアの哲学者。主著『ソクラテスの弁明』『饗宴』『② 国家』

・③ アイデア論 …ソクラテスが問いかけた事物の本質に関する理論であり、

① プラトン 哲学の中心思想。現象界の事物を成り立たせている永遠不変の实在をアイデアと名づけた

◆④ 洞窟の比喻 …人々は洞窟の壁に映った影を实在だと思っている

2 魂とエロース

人間の魂…もともとアイデア界に住んでいたが、誕生とともに肉体という牢獄に閉じ込められ、アイデアを忘れてしまった

→魂にはアイデア界への憧れ(⑤ エロース)があり、それに突き動かされて、アイデアを⑥ 想起(アナムネーシス)することができる

→⑦ 善のアイデア (すべてのアイデアの原理)を知ろうと努める

3 魂のあり方と理想国家

a. 魂の三分説

⑧ 理性	アイデアに向かう魂の部分	それぞれの部分に徳がある
⑨ 気概	意志の働きをなす魂の部分	
⑩ 欲望	肉体につながる魂の部分	

b. ギリシアの四元徳

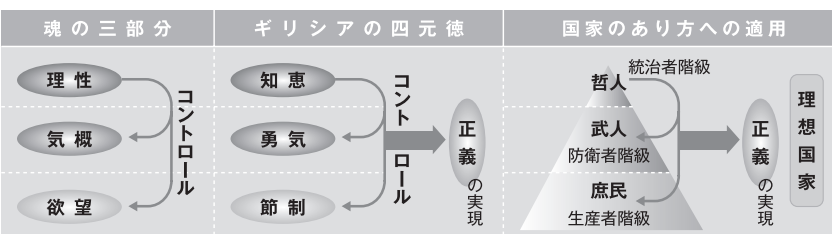
⑧ 理性の徳	指導・統制する⑪ 知恵	三つの徳が調和を得ると、魂全体の徳である⑭ 正義 が実現
⑨ 気概の徳	なすべきことをする⑫ 勇氣	
⑩ 欲望の徳	過度に望まない⑬ 節制	

c. 国家のあり方への適用…魂の三部分を各階級に対応させた。それぞれが任務を果たすことで、⑭ 正義 の支配する⑮ 理想国家が実現するとした

⑬ 統治者 階級	国家をよく治めるための⑪ 知恵 にすぐれる者
⑭ 防衛者 階級	国家を守るための⑫ 勇氣 にすぐれる者
⑮ 生産者 階級	国家に尽くすための⑬ 節制 を必要とする者

step ① プラトンが理想視した哲人政治とはどのような政治か説明せよ。

⑬ 哲学者が支配者となるか、支配者が哲学者となるような政治のあり方。



③アイデアは英語の idea の語源で、ギリシア語で「見る」を意味する動詞 eidein から派生したことは。

④体を縛られて壁に向かって座っている人間が、壁に映る背後の事物の影を实在だと思って生きているという状態を示したとえ。

⑤アイデアを目指す⑤は、それゆえに愛知(哲学)的な情熱である。

⑥英語では、真理は発見する(discover。原義は覆いを除くこと)ものとされることと比較してみたい。

⑦個々の事物にアイデアがあるように、アイデアにもアイデアがある。⑦は、アイデアのアイデアなのである。

⑭⑧が⑨と⑩を導くことで、それぞれに徳が備わってくる。

⑮については②のなかで語られている。

⑬哲人政治は、哲学的精神と政治権力を結びつけた①の⑮論である。

1 アイデアへの憧れ

①プラトンの略歴と政治家を目指していた彼が哲学に向かうようになったというエピソードを必ず説明したい。

③現象界の事物とアイデア界の真実在(アイデア)の関係を確実につかませたい。すなわち、プラトンはピタゴラス学派の影響を受けており、「肉体は魂の牢獄」と考えていた。肉体に閉じ込められた魂は、現象界の事物のなかにアイデアの影を見ながら、アイデア界への憧れを持ち続けているのである。

2 魂とエロース

⑥真理の発見を「想起」ととらえる考え方は、生徒には難しいので丁寧に説明したい。すなわち、アイデアとともに永遠不滅のアイデア界に存在していた人間の魂は、現象界の肉体と合体することで不完全なものとなり、目の前の事物にしかアイデアの影を見ることができなくなった。しかし、そのアイデアの影を手がかりに理性を働かせ続けてアイデアと遭遇するとき、かつてアイデア界で一緒にいたアイデアを思い出すということになるのである。

⑦善のアイデアについては、太陽の比喻で語られている。すなわち、事物の認識は太陽の光によって、万物の生存は太陽の熱によって可能となるように、太陽は存在と認識の根拠である。そして、善のアイデアは、その太陽と同じく、万物の存在と認識の根拠なのである。

3 魂のあり方と理想国家

⑧～⑭四元徳については、御者と二頭立て馬車の比喻がわかりやすい。すなわち、気性の激しい白い馬(気概)と貪欲な黒い馬(欲望)に引かれた馬車を、冷静な御者(理性)が巧みに操ることで、馬車は正しい道(正義)を進むことができる、というたとえである。

⑮～⑰プラトンは、この理想国家論は人々にはなかなか受け入れられないだろうと語っており、実現が困難であることを認識していた。師ソクラテスを死刑に追いやった民主政治(実際は衆愚政治)への批判が、彼にこのような理想国家を語らせたのだといわれている。現代のわれわれの民主社会も、衆愚化の危険性を持っているのだという自覚を促していきたい。

TRY

1. プラトンについての記述として最も適当なものを一つ選べ。

- ① プラトンの理論は、師ソクラテスの著書『ソクラテスの弁明』を継承する形で成立した。
- ② 「～そのもの」を事物の本質ととらえ、アイデアと名づけてみずからの理論の中核に据えた。
- ③ アリストテレスやエピクロス派の開祖ゼノンなどはプラトンが開いたアカデメイアで学んだ。
- ④ アリストテレスは、師プラトンの著書『形而上学』に影響を受けたが、のちに批判もした。

1. ②

2. プラトンの思想についての記述として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 魂がかつての故郷であるアイデア界を恋い慕う情熱が、アナムネーシスである。
- ② 国家の形成に重要な要素の一つである、国民どうしが結束する徳が友愛である。
- ③ 統治者階級・防衛者階級・生産者階級はそれぞれ他の階級に依存せず独自の働きをなす。
- ④ 人間の魂の理性・気概・欲望の三つの部分の徳は、それぞれ知恵・勇気・節制である。

2. ④

EXERCISE 2

記述問題 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

1 古代ギリシアの思想 》本冊 p.10～15

世界の成り立ちを説く神話を離れ、理性によって⁽¹⁾世界の根源や始原を求めるようになったギリシアでは、(a)が生まれた。この知的探求はやがて人間へと向かい、(b)とよばれる教師集団が⁽²⁾市民的な徳や弁論術を教授するようになった。しかし、彼らの活動は社会に混乱をもたらしたため、それを危惧して⁽³⁾ソクラテスの活動が始まった。ところが、この活動に反感を抱いた人々が彼を告発し、ソクラテスは処刑された。この状況を見たプラトンは、「愛知」の精神を持つ者こそが政治に携わるべきだとして、(c)を説いた。

プラトンの弟子のアリストテレスは、師の説を批判して、事物の本質である(d)は個物のなかに内在すると説き、⁽⁴⁾師の理想主義的な倫理・政治論とは異なる思想を展開した。その後、マケドニアがオリエントまでその領域を広げると、人々の間で⁽⁵⁾個人主義の生き方や世界市民的な生き方が模索されるようになった。

問1 空欄(a)～(d)に適する語句を答えよ。

問2 下線部(1)について、根源・始原を意味するギリシア語をカタカナで何というか。

問3 下線部(2)について、徳を意味するギリシア語をカタカナで何というか。

問4 下線部(3)について、ソクラテスが街頭で人々と議論をする際に用いた方法を何というか。

問5 下線部(4)について、アリストテレスが述べた、i 仕事や能力に応じて報酬を与える正義、ii 行為が過度にならないことをそれぞれ答えよ。

問6 下線部(5)について、i 「隠れて生きよ」と述べ、個人主義的な生き方を説いた人物、ii ストア派が理想とした理性によって情念を制御する状態をそれぞれ答えよ。

問1 a 自然哲学	b ソフィスト(知者)	c 哲人政治	d エイダス(形相)
問2 アルケー	問3 アレテー	問4 問答法	
問5 i 配分的正義	ii 中庸	問6 i エピクロス	ii アパテイア

2 キリスト教・イスラーム 》本冊 p.16～21

イスラエルの民は、律法の遵守により救済に預かるという契約を神(a)と結んだ。その後、ユダヤ教の(b)派の人々は、律法の厳しい遵守を人々に迫った。こうした状況で、(c)による洗礼を受けメシアの自覚を持ったイエスは、⁽¹⁾信仰の正しいあり方を説き始めた。しかしその教えは、ユダヤ教保守派の反感を買い、彼は磔刑に処せられた。ところが彼が復活したと信じる人々は教団を設立して、キリスト教が成立した。その後、回心した元ユダヤ教徒の(d)はイエスの死を⁽²⁾独自に解釈し、キリスト教教義の基礎を確立した。そして、カトリック教会は異端論争を通じて⁽³⁾独自の世界観・価値観をヨーロッパ世界に提供した。

一方、これらの宗教の影響を受け、みずからを最高で最後の(e)とする(f)により、イスラームが開かれた。それは(g)・⁽⁴⁾五行を信仰の要とする⁽⁵⁾一神教で、(h)とよばれる共同体を形成した。

問1 空欄(a)～(h)に適する語句を答えよ。

問2 下線部(1)について、イエスが神への愛とともに重視した愛は漢字3字で何というか。

問3 下線部(2)について、神はイエスを遣わし人間の罪を償ったという思想を何というか。

問4 下線部(3)について、i 最大の教父哲学者、ii 教会付属の学校で学ばれた学問をそれぞれ答えよ。

問5 下線部(4)について、i 一生に一度、聖地を訪れること、ii その聖地の名称をそれぞれ答えよ。

問6 下線部(5)について、i 神のことばを記したイスラームの教典、ii これにより作られた法をそれぞれ答えよ。

問1 a ヤハウェ	b ファリサイ	c ヨハネ	d パウロ	e 預言者	
f ムハンマド	g 六信	h ウンマ	問2 隣人愛	問3 贖罪思想	
問4 i アウグスティヌス	ii スコラ哲学	問5 i 巡礼	ii メッカ	問6 i 『クルアーン』	ii シャリーア

3 古代インドの思想と仏教 》本冊 p.22～25

(1)カースト制度と(2)バラモン教が、今日までのインドの社会制度や精神風土に、さらに東洋思想全体に与えてきた影響力は大きい。とくにバラモン教の聖典『(a)』の哲学部門をなすウパニシャッドの思想—その中心をなす(3)業による輪廻転生とそこからの解脱の教え—は、(b)を開祖とするジャイナ教や仏教に批判的に継承、展開されていった。ブッダとなったガウタマにとっても人生は苦であり、彼の出家と修行の目的は、(4)その苦悩の解明とそこからの解脱にあったといえる。その後仏教の教えは、教団((c))を通じて広められ、ガウタマ入滅後には、その解釈をめぐる(5)教団の分裂を経ながら各地に伝播していったのである。

問1 空欄(a)～(c)に適する語句を次から選び、記号で答えよ。

ア. スッタニパータ イ. ヴァルダマーナ ウ. サンガ エ. ダルマ オ. ヴェーダ

問2 下線部(1)について、四つの種姓(ヴァルナ)を、その上位から順にカタカナで何というか。

問3 下線部(2)が民間信仰を取り入れ発展した、インドの民族宗教は何か。

問4 下線部(3)について、苦しみの世界である輪廻からの解脱の境地を漢字4字で何というか。

問5 下線部(4)について、ガウタマが考えた、i 苦悩の原因、ii 解脱のための独自の道をそれぞれ答えよ。

問6 下線部(5)について、i 生命あるものすべてにブッダとなる可能性を認める大乘仏教の教え、ii 空の思想を説いた人物をそれぞれ答えよ。

問1 a オ b イ c ウ	問2 ① バラモン ② クシャトリヤ ③ ヴァイシャ ④ シュードラ		
問3 ヒンドゥー教	問4 梵我一如	問5 i 真理(法)についての無知(無明) ii 中道	
問6 i 一切衆生悉有仏性		ii ナーガールジュナ(竜樹)	

4 中国の思想 》本冊 p.26～29

春秋末期から戦国時代は、百家争鳴とよばれる、中国史上(1)もっとも思想の多産な時代であった。なかでも、(a)に始まる(2)儒家思想は、性善説に立つ(b)、性悪説の(c)によって発展した。それは前漢の後半ごろから官学となり、清朝崩壊までその地位を保った。また宋代以後には、(3)朱子学や(4)陽明学という新儒学が成立し、とくに前者は中国・朝鮮において国家教学として絶大な力を持つにいたった。この儒家思想とは対照的な思想を展開したのが道家であった。「(5)大道廢れて、仁義有り」と説いた(d)、人為を離れたありのままの世界を(6)万物斉同と洞察した(e)の思想は、今日なお儒教とは異なる意義を保っている。

問1 空欄(a)～(e)に適する人名を次から選び、記号で答えよ。

ア. 荀子 イ. 莊子 ウ. 孔子 エ. 孟子 オ. 老子

問2 下線部(1)について、兼愛・非攻説を唱えた思想家は誰か。

問3 下線部(2)について、儒家思想として**適当でないもの**を次から一つ選び、記号で答えよ。

ア. 孝悌忠信 イ. 克己復礼 ウ. 温故知新 エ. 心齋坐忘 オ. 修己安人 カ. 仁義礼智

問4 下線部(3)について、万物の生成を説明する朱子学の哲学体系を漢字で答えよ。

問5 下線部(4)について、陽明学の実践重視の考え方を漢字で答えよ。

問6 下線部(5)について、ここにいう道(タオ)と、儒家の説く道との違いを簡潔に説明せよ。

問7 下線部(6)はどのような意味か説明せよ。

問1 a ウ b エ c ア d オ e イ					問2 墨子
問3 エ			問4 理気二元論		問5 知行合一説
問6 道家の道(どう・タオ)は万物の根源であるのに対し、儒家の道は人間の倫理的行動規範である。					
問7 ありのままの自然には対立も差別もなく、すべては斉しいということ。					

マークシート式問題

1 自然についての様々な考えの説明として最も適当なものを、次の ①～④ のうちから一つ選べ。

[センター 19 本試]

- ① プラトンは、現象界に現れているものはすべてアイデアを原型とするものであるため、自然界の諸現象も真実であるとした。
- ② アリストテレスは、自然の世界では、種子が樹木に成長するのと同様に、すべてのものは可能態から現実態へと展開すると説いた。
- ③ 欲望に対する理性の優位を説いたストア派によれば、自然を支配する理法と人間理性とは別物であり、人は後者にのみ従うべきである。
- ④ 創造という概念を認めないキリスト教とは異なり、ユダヤ教では、自然界のすべてのものは、神によって創造されたと考えられている。

②

2 さまざまな宗教や思想家による真理についての説明として最も適当なものを、次の ①～④ のうちから一つ選べ。

[共通 22 本試]

- ① ソクラテスは、ソクラテス自身が持っている真理を、対話相手に教え込むために、産婆術(助産術)にたとえられる対話活動を重ねた。
- ② イスラームにおいて、ムハンマドは、神の真理の言葉を託された者であり、彼によって示された言行・慣行も、信者の生活規範となっている。
- ③ 中世ヨーロッパのスコラ哲学では、神学は哲学に仕えるべきものとされ、哲学の真理は信仰に基づく神学の真理に優越すると考えられた。
- ④ ブッダは、生来の身分ごとに異なる義務をそれぞれ全うすることで、真理を体得できると説いた。

②

3 神と教会についてのアウグスティヌスの考えとして最も適当なものを、次の ①～④ のうちから一つ選べ。

[センター 17 本試]

- ① 教会が指導する聖書研究を通して信仰を深めることにより、神の恩寵を得ることができると考えた。
- ② 人は神の恩寵によらなければ救われないと主張し、教会は神の国と地上の国を仲介するものだと考えた。
- ③ 教会への寄進といった善行を積むことにより、神の恩寵を得ることができると考えた。
- ④ 人は神の恩寵によらなければ救われないと主張し、贖宥状の購入による救済を説いた教会の姿勢は間違っていると考えた。

②

4 イスラーム教の信仰共同体についての説明として最も適当なものを、次の ①～④ のうちから一つ選べ。

[共通 21 追試]

- ① クルアーン(コーラン)などを基に体系化されたイスラーム法に従う共同体であり、そこでは宗教と政治が一体となっており、部族社会の伝統が重視され、アラブ民族こそがアッラーに選ばれた民族だとされている。
- ② クルアーン(コーラン)などを基に体系化されたイスラーム法に従う共同体であり、そこでは宗教と政治が一体となっており、民族や部族の枠を超えて、共通の信仰をもつ者が広く受け入れられ平等に扱われる。
- ③ 個人の内面や日常生活を定める宗教的戒律と、社会のあり方を定める世俗的規律とが厳密に区別された共同体であり、そこでは、部族社会の伝統が重視され、アラブ民族こそがアッラーに選ばれた民族だとされている。
- ④ 個人の内面や日常生活を定める宗教的戒律と、社会のあり方を定める世俗的規律とが厳密に区別された共同体であり、そこでは、民族や部族の枠を超えて、共通の信仰をもつ者が広く受け入れられ平等に扱われる。

②

- 5 ブッダが説いたとされる教えについての説明として最も適当なものを、次の ①～④ のうちから一つ選べ。

[センター 20 追試]

- ① 全ての生き物は、生老病死の苦しみから逃れることはできない。よって、バラモン教の祭祀に基づき、苦しみを超克する道を歩むべきである。
- ② 自己の身体を含め、あらゆるものは自己の所有物ではない。よって、我執を断つことにより、それらへの執着を捨てる道を歩まねばならない。
- ③ ウパニシャッド哲学などで説かれた涅槃は認められない。人は、涅槃の境地ではなく、輪廻からの解脱を目指すしなければならない。
- ④ 貪りと怒り、そして忍辱の三つの煩悩は、三毒と呼ばれる。人は、物事のあるがままの真理を見つめて、煩悩の炎を消さなければならない。

②

- 6 大乘仏教についての説明として最も適当なものを、次の ①～④ のうちから一つ選べ。 [センター 20 本試]

- ① 上座部仏教が自らを「小乗仏教」と名乗ったのに対して、自らを大きな乗り物に譬えてその立場の違いを鮮明にした。
- ② 尊敬の対象である菩薩とは、在家の信者とは異なり、他者の救済を第一に考える出家修行者のことである。
- ③ 代表的な経典の一つである『般若経』では、あらゆる事象には固定不変の本体がないと説かれている。
- ④ スリランカから東南アジアへと伝えられ、その後、東アジア世界に広がっていったため、「南伝仏教」と呼ばれる。

③

- 7 高校生 X は、荘子が、儒家や墨家を厚顔無恥と批判する次の資料を見付けた。諸子百家の思想を踏まえて、この資料から読み取れる内容として最も適当なものを、下の ①～④ のうちから一つ選べ。 [共通 21 第 1]

資料 今の世の中では、死刑を科せられた者が重なり合い、首かせ足かせをはめられた者がひしめき合い、刑罰を受けた者が至る所にいる。それなのに儒家や墨家はまたことさら変わった振る舞いをして、そうした罪人たちの中で腕まくりをして威勢を振るっている。ああ、ひどいことだ。彼らの厚顔無恥は甚だしい。聖人や知恵が首かせ足かせを留める楔となっているのではないか。仁や義が手かせ足かせを固める錠前になっているのではないか。 [『荘子』より]

- ① 孔子は、周公旦の政治を理想としていたが、この資料で荘子は、聖人を範とすることが、多くの刑罰をもたらしていると考えている。
- ② 孟子は、徳を養えば誰でも優れた人物になれると説いたが、この資料で荘子は、人々が仁や義を欠くことで罪人になっていると嘆いている。
- ③ 墨家は、儒家と同様に仁と礼の思想を重んじたが、この資料で荘子は、儒家と墨家の思想の親近性を見て取り、まとめて批判している。
- ④ 老子は、「大道廢れて仁義あり」と述べて儒家を批判したが、この資料で荘子は、そうした老子とことなり、仁や義に積極的な意義を認めている。

①

- 8 次の文章は、朱熹と王陽明の「格物」の理解についての説明である。文章中の [A]・[B] に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の ①～④ のうちから一つ選べ。 [センター 20 追試]

朱熹は、『大学』の「格物」という言葉を「物に格(いた)る」と読み、修養を重んじるだけではなく、事物の本質を把握しようとする [A] も重んじた。これを受けて、王陽明は 7 日間、目の前の竹を見続けて憔悴の余り病気になった。こうした失敗から、王陽明は、心こそが理であると考え、「格物」を「物を格(ただ)す」と読み替えて、万人に備わる [B] に従えば、誰でも、その時々における正しい行いをすることができると説いた。二人の主張の背後には、経典解釈の違いがあったのである。

- ① A 居敬 B 良知 ② A 居敬 B 忠恕
- ③ A 窮理 B 良知 ④ A 窮理 B 忠恕

③